

会長の挨拶（1）

ロータリーの定義（思想構造）について

- ・「ロータリーの思想構造とは、『ロータリーとは何か』と問うことであり、またロータリーの中心概念が職業奉仕であるところから、職業と言う名で呼ばれる人間の精神的実践活動の実体は何かを探求しても結果的には同一の結論に達することになる。」
 - ・「実態は意外と複雑で困惑の念をもようさせる要素がある。親睦と奉仕にせよ、奉仕の内容にせよ、友愛心と思いやりの心にせよ、例会出席にせよ、ロータリーの説く概念の意味は、これを正しい思想的構造において理解しないと大変な誤りを犯すことになる。」
 - ・「現在日本ロータリーにおいて発生しつつある大混乱は、ロータリーが個人奉仕を中心とする社交団体であり、この団体の支えの上に国際ロータリーの組織があり、ロータリーの理論の探求及び開発は第一次的に各ロータリアンにあることを忘れ、ロータリアン各自と各ロータリークラブが理論構造についての探求を怠たり、あたかも国際ロータリーの忠実な僕たるガバナーの下僕として奉仕プログラムを強要されるところにある。」
 - ・「国際ロータリーの直接監督は、あくまでも、各クラブの自主独立性を尊重しその地方的特色を十分に発揮させるため、最小限度の連絡調整に限られるべきこと『手続要覧』に明記されている通りである。」
 - ・「ロータリアン各自と各ロータリークラブが、ガバナーの訓令もさることながら、先ずロータリーとは何かを真剣に考え、自己反省と前進をする時期がこれからは存在すべきであると思われる。」（小堀憲助著 『ロータリーの思想構造』千種会 より引用）
- 以上の如く、デカルトの「我思う故に我あり」の名言通り、思考停止、つまり単に鵜呑みにするのではなく、歴史と伝統を基盤に『奉仕の精神』の積極的活力を地域社会に向けて精力的に解き放ち、『思考する宇部ロータリークラブ』を目指すのである。